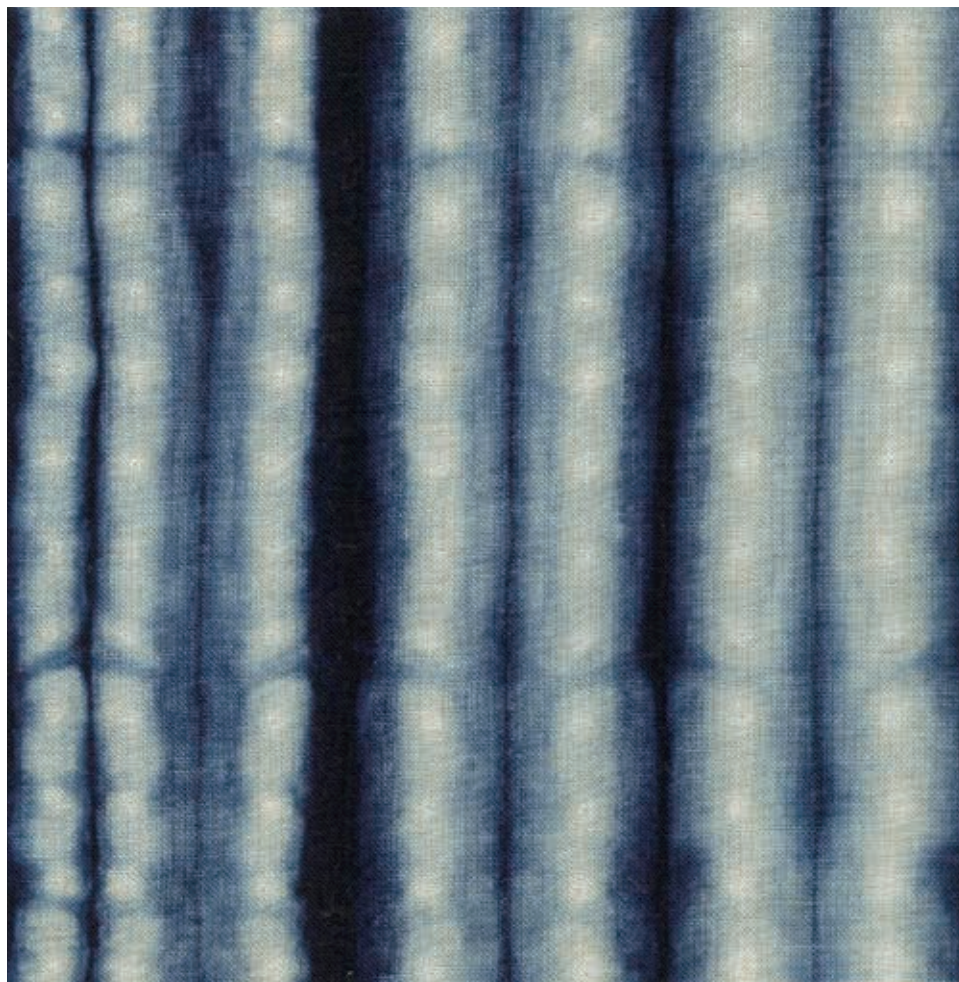


有 松

NO.84 有松まちづくりの会



◇縫い筋杻目絞り

縫い筋杻目絞りとは、縫い養老絞りの仕上がりと同じようになりますが、縫い養老絞りが技術的に大変難しく熟練した技がいる技法であるのに比べ、縫い筋杻目絞りは比較的簡単にできる縫い絞りの一つだと言えます。普通の杻目絞りは、下絵の線に沿って縫い糸を引き締めて染め上がると不規則なたて皺ができます。縫い筋杻目の場合は、養老絞りのような規則的なたて筋を縫いによって出すため、針の抜き刺しを一定の間隔で行い縫い締める必要があります。

解説：竹田 昌弘

「回想」 有松や絞りと切っても切れない縁が・・・

有松まちづくりの会副会長 中島 信行

重要伝統的建造物群保存地区に選定されてから早5年、続いて日本遺産にも認定され、全国から注目された有松。抜けるような青空のもと、東海道に立つてあらためて町を眺めた。なんの障害物もなく、青空まで届くような東海道とその町並み。広くなっただけでなくほんとうに美しくなったと心から思うのは私だけだろうか。無電柱化のために頑張られた皆さんのご苦労が偲べれます。

この有松でまちづくりの会が作られて48年。町並み保存のため重伝建選定をめざして粘り強く活動をされてこられたことをはじめ、伝統的な絞り産業や、山車など有形・無形のまつり文化の維持・継承のための活動を続けて来られた先人の努力に心から敬意と感謝を申し上げます。

会の目標の一つだった重伝建地区に選定され、

20年・30年後の有松を展望したまちづくりの運動が必要になってきました。「有松まちづくりの会」もそれに応えることのできる会に成長・発展することが求められていることなどが最近の役員会でたびたび議論されてきました。

そして役員の高齢化に伴い、後継者づくりを念頭に、若い人の参加を促進し着実に努力をしていくこと。また、重伝建に選定されたことを生かして活動するために、会の会則を改定する必要があることも話し合われて、総会に向けて改定作業をすすめることになりました。

こうした経過のなかで私も会則改定作業に関わることになり、役員会に提起する「たたき台」の原案を考えながら、昨年末101歳で大往生を遂げ、皆さんにもお見送りをいただいた母のことも思い、自分の有松の町とのつながりを思い起こしたものです。

私が小学生だった頃、父が絞り加工の仕事を引き受けてきて、型紙にポンチで穴を開け、6畳2間の狭い家の縁側で、天井から吊るした絵刷台をその都度下ろして「ウマ」にのせ、反物の絵刷りをしていました。私はそれを手伝ったり、絞りの内職を各戸へ届けに行ったり、絞りも「巻き上げ」くらいは「見よう見まねで」何とかできるようになったものです。有松では、このようなことはよくあることでした。

自分が就職し有松に不在であった時期は、母が突き出し鹿の子絞りの伝統工芸士として皆さんからあたたかくお付き合いいただき、絞会館や各地の展示会などで実演をした話を聞いたりして誇りに思っていました。

今、有松まちづくりの会の会則改定に関わることによって、80年の自分の人生を振り返ることになり「絞り」や「有松」と、切っても切れない縁があったのだな、とつくづく思っています。

今後は、絞り産業を核に、町並みや山車など歴史文化を活かした有松のまちづくりの一助になりたいと思います。

日本遺産、その先に見据えるもの

名古屋市教育局生涯学習部
文化財保護室長

片岡 進矢

有松の皆様方には日頃より本市文化財保護行政に格別のご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

私は今、全国二度目の新型コロナウイルス感染症による非常事態宣言の中で本稿を執筆しています。ウイルスという目には見えない相手の様子がある程度分かってきたとはいえ、まだまだ未知の脅威との闘いが続きそうです。

そんな中でも、まちの伝統を引き継ぎ、将来を見据えた歩みは着実に進めなくてはなりません。皆様の弛まぬ努力に敬意を表します。

さて、私が改めて言うまでもなく、有松は「重伝建」、さらには「日本遺産」という「二冠王」としてのまちづくりを進めているわけですが、有松の魅力は大きく言えば、産業・生業としての「絞り」、重厚な「町並み」、華麗な「山車・祭礼」の三つがあります。これらの歴史資源は個別に存在するのではなく、相互に絡み合っています。有松の魅力は、その総合力によって支えられていると言えましょう。

日本遺産・有松のストーリーは、「絞りがもたらした富」というキーワードで、こうした歴史資源の関係をシンプルに、分かりやすく説明していると思います。このストーリーに基づいて、先ほどの三つの魅力をバランスよく取り上げ、発信していくことが大切です。人の関心の持ち方は千差万別ですが、このストーリーに沿ったものであれば、どなた様にとりましても、どこか琴線に触れる部分があるのではないのでしょうか。

翻って、ユーザー目線と言いますか、私が一観光客としてどこかを訪れるなら、行く先にはやはり、散策、食事、買い物という三つのアイテムを求めます。あとは体験でしょうか。私自身は根がシャイなものですから、いわゆる体験に手を出すことはあまりありませんが、家族連れや遠方から来られた方、特に外国人観光客にはまたとない思い出になるでしょう。有松には、これらすべてがあります。素晴らしいことです。まちにこうした「ライブ感」が

あることが、有松の大きな強みであると思います。

全国の重伝建の町並みをいくつも訪ねましたが、古い建物は残っていてもその多くが空き家、というところはいくつも見ました。

こうして有松というまちを改めて見つめてみますと、間違いなく、全国でも「いい位置」に付いていると思います。ですが、有松の皆様が目指しているのはそんなものではないですよ。有松のポテンシャル、底力を考えれば、「トップクラス」を目指し、維持していくことが十分可能ですから。

日本遺産に選ばれたことで、当初の三年間、国からの充実した補助を受けられます。これは、またとないチャンスです。この補助を「元手」として、まちが長きにわたって自走していけるような「投資」に活用していただければと思います。もう一つ、今後のまちづくりには、次の世代を担う若い方々が、より以上に関われるようにしていただけるとよいのではないのでしょうか。若い方々が、まちのさらなる発展に必要なエネルギーを注入してくれることと思います。

最後に、私ども行政も、皆様方としっかり伴走していくことをお誓い申し上げて、以上を私からの寄稿とさせていただきます。

連続まちづくりセミナー

『ネイバーフッドアリマツ』

『ネイバーフッドアリマツ』は、領域を超えたコラボレーションを前提とした持続的なまちづくりの可能性をさぐる連続セミナーです。先進的な事例をおこなう事業者や研究者を交え、オンラインで開催しました。

01 クラフトツーリズムが拓く新しい産地

コミュニティ【2020年11月27日(金)】

福井県鯖江市を拠点に活動する「TSUGI」の代表で、鯖江市・越前市・越前町で展開する体感型マーケット「RENEW」の発起人・ディレクターの新山直広氏と、越前漆器や眼鏡など7ジャンルの産地の工房見学やワークショップを開催する「RENEW」の取り組みから、クラフトツーリズムをきっかけにこれからの産地に必要な作り手と使い手、伝え手の関係性を議論しました。

02 ストリートデザインと歩くまちづくり

【2021年1月10日(日)】

都市戦術家として国土交通省が発表した「ストリートデザインガイドライン」の策定懇談会への登壇や、編集長を務める「ソトノバ」において、公共空間の活用に関する制度や社会実験、先進事例などの情報発信を行う泉山墨威氏と、歴史まちづくりと産業観光が交錯する有松で、歩くまちづくりとストリートデザインの可能性について議論しました。

03

円頓寺商店街におけるナゴダナバンクの取り組み【2021年1月17日(日)】

四間道・円頓寺界隈の空き家対策チーム「ナゴダナバンク」の代表で、遊休不動産の所有者とエリアの魅力を向上してくれるテナントをとくに口説き、これまで30店舗近くを誘致してきた建築家の市原正人氏と、日本遺産や重伝建地区となった有松で、遊休不動産をどのように活用できるか、建築やまち並み保全と合わせた賑わいづくりについて議論しました。

武馬 淑恵

つながっていく「まつり」

秋晴れの下、沢山の人が集って毎年賑やかに催される有松天満社秋季大祭も、昨年はコロナ禍の影響で山車運行が中止されました。そこで開催された日本遺産企画「有松祭礼と絞り展」では、江戸時代、まだ山車祭りとして催される以前に、趣向を凝らした豪華な衣装を纏い笛や太鼓を奏で賑やかに天満社の宮の坂を登り参拝する練物行列の祭りの様子も紹介されました。この衣装などは「中老」と呼ばれた絞り産業で栄華を誇った町の名家が提供したもので、有松の祭りに町の繁栄と共に大きく貢献してきました。その名残で、今では各町其々絞り浴衣や半纏・楯方Tシャツなど競って作り祭りに華を添えています。この日、語り継がれてきた祭礼の歴史あれこ

れ！これからの有松”テーマに座談会も開催されました。明治六年西町神功皇后車が中老たちの出資により有松で製造された後、中町唐子車・東町布袋車が揃ってからは有松山車祭りとして盛大に催され、大切に管理され今に伝えられています。「有松まちづくり憲章」にもあるように、有松の歴史を学び、町並み・絞り・山車を守り次の世代の子供たちに有松のたからものを伝えて行きたいと思っています。

本田 雅己



有松天神祭



有松の文化―茶室とおもてなし

皆様のお陰で有松が「日本遺産」に認定され江戸の情緒が味わえる数少ない日本の町として数多くの人々が訪れる日も近い。私の育った昭和の時代、この小さな町は、まだ家と家・人と人の関係が密で、貧しい時代ではあったが何かにつけて物を贈ったり贈られたりというもてなしが当り前だった。家に来られた方にはどなたにも抹茶を点て、先ずは一服・・であった。

有松は古い町並みだけでなく、江戸時代からずっと続けられた生活文化が残っている。それが「有松のおもてなし」。抹茶だけでなく「心を伝えるおもてなし」は、江戸から明治時代に建てられた町中の建物に残る茶室に今も生きている。コロナ禍の今出来ることは少ないが、小さいながら「有松茶会」を開催し、町にのこる数々の名茶室にも思いを馳せ、後世にこの文化を繋げる機会にしたいと思っている。

3月27日 28日 於・竹田家住宅

「有松の茶室資料展」

3月28日 竹田家 「栽松庵」にて

「有松茶会」

中村 俣子

「有松東海道日本遺産紹介処（旧山田薬局）」等の活動について

旧山田薬局

では有松の町が日本遺産に認定されたことを契機として、令和2年6月から、日本遺産になった魅力ある有松にぶらりと来られても楽しんでいただける様に、パンフレット及び映像で紹介しています。



また、「絞り染め・着物体験・組紐・絞り布くるみボタン・絞りエコバック・写真教室」等のワークショップを行い、魅力ある有松を楽しんでいただきました。更に「浮世絵と写真が語る有松展・まちなみ美術館・絞りの布展」等の有松又は絞りに関する展示も行いました。

なお、山田家住宅は棟札で寛政3年（1791）に建てられたことが分かった町家で、先代が始めた薬局の調剤室が残るレトロな昭和の薬局です。建物自体もじっくりご覧いただければ、と思います。

紹介処では協力していただけるボランティアの方を募集しています。

山田 修生

ゲストの満足度を高めるために

2020年12月1日、

「ナノボ」のメンバーであるヨピス・エリザベス（スペイン）さん、レーナ・山口（ドイツ）さんを講師に迎え、町並み案内のスキルアップ研修を受けました。ナノボとは、名古屋は退屈じゃない、魅力的な街だと発信しているグループです。プロのガイドであり、外国人のお二人の目から見た有松の魅力を発見してもらい、それを活用して私たちのガイド力量を向上させる目的です。私が最初に感じたのはお二人が有松のことをよく知っているということです。有松にある絞り、食事のお店の特徴を的確にとらえており、ガイドのコースに桶狭間を入れると良いとアドバイスを頂いたことには考えさせられました。私は絞りや有松の町並みにとらわれていました。その他ガイドの仕方についてもゲストに合わせて内容を考え、話し方の工夫をすること。身振りを使って説明することなど、大いに参考になりました。語学に自信がないと案内も応用が利かないのですが、まずはゲストに寄り添い、その人に合わせて変化をつけることが大事との言葉は、日本人のお客様にも通ずることと感じ入りました。



小池 裕之

有松吟行 令和二年秋

松阪 ハンザキ吟行句会

令和二年十月二十日

色変へぬ松の枝ぶり虫籠窓 橋本 石火
 晩秋や町騒を断つ細格子 大河美智子
 行く秋や絞りと染めのくくり糸 奥田 ちよ
 家柿の色付く染屋裏は川 金沢 東虎
 撮影の一回と会ふ秋日影 住吉 篤子
 どの家も絞りの暖簾雁渡し そぶえこうこ
 大甕に秋の草活け絞り展 高橋 良子
 切通してふ参道や鵲高音 瀧 更紗
 藍染の暖簾を吊す秋の風 巽 乾宏
 身に入むや土蔵造りの影深し 辻 治代
 草の種線路横切る切通し 中田 凜
 古びたる絞りの問屋秋たくる 諸岡 今日子
 藍甕の蓋ずれてゐる神の留守 渡辺 みえ子
 秋寂びの調剤室の茶の小瓶 高橋 ちづる

俳句雑誌 ハンザキ (主宰 橋本石火)

令和3年3月3日、春陽の中、竹田嘉兵衛商店で藍甕びらきが行われました。この藍甕工房は、故竹田耕三氏が使われていたものですが、耕三氏亡きあと、使われなくなっていました。

日本遺産となった有松は、江戸時代より「藍染が風にゆれる町」でありましたが、現在は藍染の様子を気軽に見ることが難しくなっています。そこで、耕三氏のご子息・竹田昌弘氏が主軸となり、古来の「天然灰汁発酵建て」の藍染を再開され、次代へ有松の絞りの伝統を伝えると共に、地域に開かれた工房となるよう取り組まれる運びとなりました。

当日は、藍甕の埋設された工房前で、宮司様によるご祈祷がなされ、竹田家関係者や絞り染め愛好者、地域の皆さま40名ほどで事業の発展を祈りました。その後、本藍染の実演がなされ、糸を解くと、深みのある藍色に染められた手蜘蛛絞りが現れました。

気温の変化が激しい現代にあつては、藍甕の維持管理は大変なことと思いますが、来町される方々にも藍染の美しさを感じていただける有松となりますようお願いさせていただきます。

(加藤明美)



昌弘氏実演



手蜘蛛しぼり披露



本藍染を再び有松で
 竹田嘉兵衛商店で藍甕びらき

町並みの 新しい仲間

◆ Amitié (アミティエ)

☎ 052-602-8513

店名は Amitié (アミティエ：友情) フェアトレードとオーガニックのお店です。

幼い子供が重たい力カオをたくさん運んでいる、何になるかも知らない、チョコレートも知らない。

豆腐を低価格で売っている、作っても作っても赤字、でも作らなければもっと赤字。

コストを抑えるために何を入れているのだろう、何を使っているのだろう。

誰かの犠牲で成り立っている買い物なんて嬉しくも楽しくもない。

“素材を作る人、製品を作る人、

流通させる人、販売する人々を応援”

持続可能な社会は日々の選択から始まります。環境を守り作る人が安心して働くことができ買う人がうれしい。顔の見えるお買い物でみんなが幸せになれる未来を。

*思いやる心

日本にはエシカル（倫理的・道徳上）という言葉のずつと前から大切にされて来た

「おたがいさま」「おかげさま」「もったいない」「足るを知る」という言葉があります。

私達の暮らしがいつの時代でも人や地球環境と繋がっている事は変わりません。

私達が何を食べるか（食べないか）、何を着るか（着ないか）、お金をどう使うか（使わないか）によって生産者や地球環境に影響を与える事を忘れてはいけません。

株式会社 T O T E N・内藤達雄

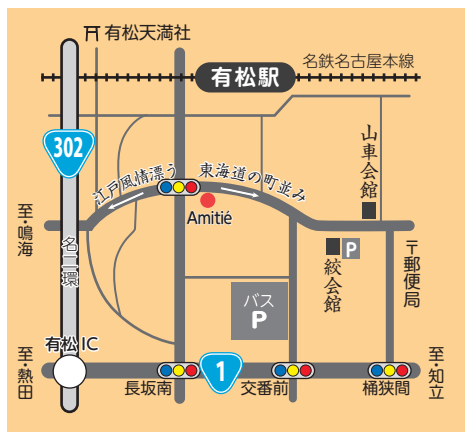
カブシキガイシャ トテン

※祖父 内藤多喜夫の俳号吐天をオマージュして会社名にしました。

住所 緑区有松2042

営業時間 10時〜18時

（月曜定休・祝日は営業）



街角ウォッチング ⑱

牛に会いに行く
有松天満社

寛政の初め、祇園寺の境内にあった天満社は文政7年（1824）に現在の位置に氏神様として祀られました。その時数千人の人々の詩歌を収められたことから、文章嶺（ふみのね）とも呼ばれています。

有松天満社の主祭神は菅原道真公です。そして道真公が丑年生まれであったことから、また道真公の遺骸を乗せた牛車が止まった場所に天満宮をお祀りしたことから、境内に牛が置かれたともいわれています。そんなわけで天満社と牛は深いつながりがあります。

有松天満社にも牛の像が置かれています。鳥居をくぐり長い階段をあがると、神廟の扉の中、左右に親子（？）一体ずつ座しています。扉の外にも一体の牛の像があり、そちらはいつでも触れることができます。天満社は学業の神様で、お参りして牛の頭をなでると知恵を授かり、痛いところをなでると癒されると言われています。例年受験シーズンにはご祈祷がありますが、現在はコロナ禍で控えられています。

今年は丑年です。天満社にお参りして牛に会いに来てください。（浅野康子）

彩 Ayalrodoni 自宅兼アトリエ
建築賞をダブル受賞!



第28回愛知県まちなみ建築賞
「有松再生プロジェクト」



第52回中部建築賞
「有松再生プロジェクト」

第37回 有松絞りまつり

◆6月5日(土)・6日(日) ※開催予定
テーマ「Arimatsu Blue
～日本遺産にあいにきて～」

※開催の有無を始め詳細は絞会館へ
☎ (052) 621-0111
<https://shibori-kaikan.com>

※新型コロナウイルス感染症の影響により、中止や内容変更となる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

◆日時・行先 未定(秋に実施予定)
町並み研修会

有松まちづくりの会 総会
◆日時 5月に開催予定
◆場所 有松・鳴海絞会館

◆主な来訪者◆

(有松あないびとの会ご案内分)

新型コロナウイルスに配慮しながら、お客様もあないびともマスク着用の上、少人数単位でのご案内をさせていただきます。おります。

桜花学園大学、名古屋短期大学、日本福祉大学を始め、近隣小学校等の地域学習にご一緒させていただきました。

岡家の寄贈反物で ナナちゃん絞りドレス姿

岡家住宅の蔵に所蔵する膨大な反物の活用を考えられたご当主(岡益光氏)は、市立桜台高校のファッション文化科に絞り反物を寄贈されました。早春の名駅ナナちゃんが生徒さん制作によるワンピース姿を披露しました。



編集後記

日本遺産に認定されて、色々な事業が行われ、有松独自の文化を作り上げてきた絞りや町並み、まつりについて改めてその歴史を見直すことができています。開村以来、400年もの間、何世代もの人々が繋いできたこの町の、一つ一つのこと、が尊く感動します。新型コロナウイルスは中々収束しませんが、嘆いてばかりはいられません。いつでも先進的で、時代に応じて常に工夫を重ねてきた有松精神を今こそ活かして参りましょう。有松のストーリーは、まだまだこれから先も続いていくのですから。(加藤明美)

企画編集

(加藤一成・長塚啓・福岡友一・伊藤総俊) 会報有松は、有松まちづくりの会ホームページに掲載しています。「有松のまち」で検索。

<http://www.arimatsumomachi.com/>

〈有松まちづくり憲章〉

私達は、先人から受け継いだ有松のたからものを守り、次世代に届けるために、この憲章を定めます。

一、有松の町並み・絞り・山車を守り、誇ります。
一、人と人がつながり、ぬくもりのある有松を創ります。

一、有松の歴史や物語を学び、遊び、伝えます。

有松まちづくりの会

二〇二二年三月三十一日発行 (年一回発行)

〒458-0924 名古屋市緑区有松三〇一二(有松商工会内)
TEL (052) 621-0178
FAX (052) 622-7401